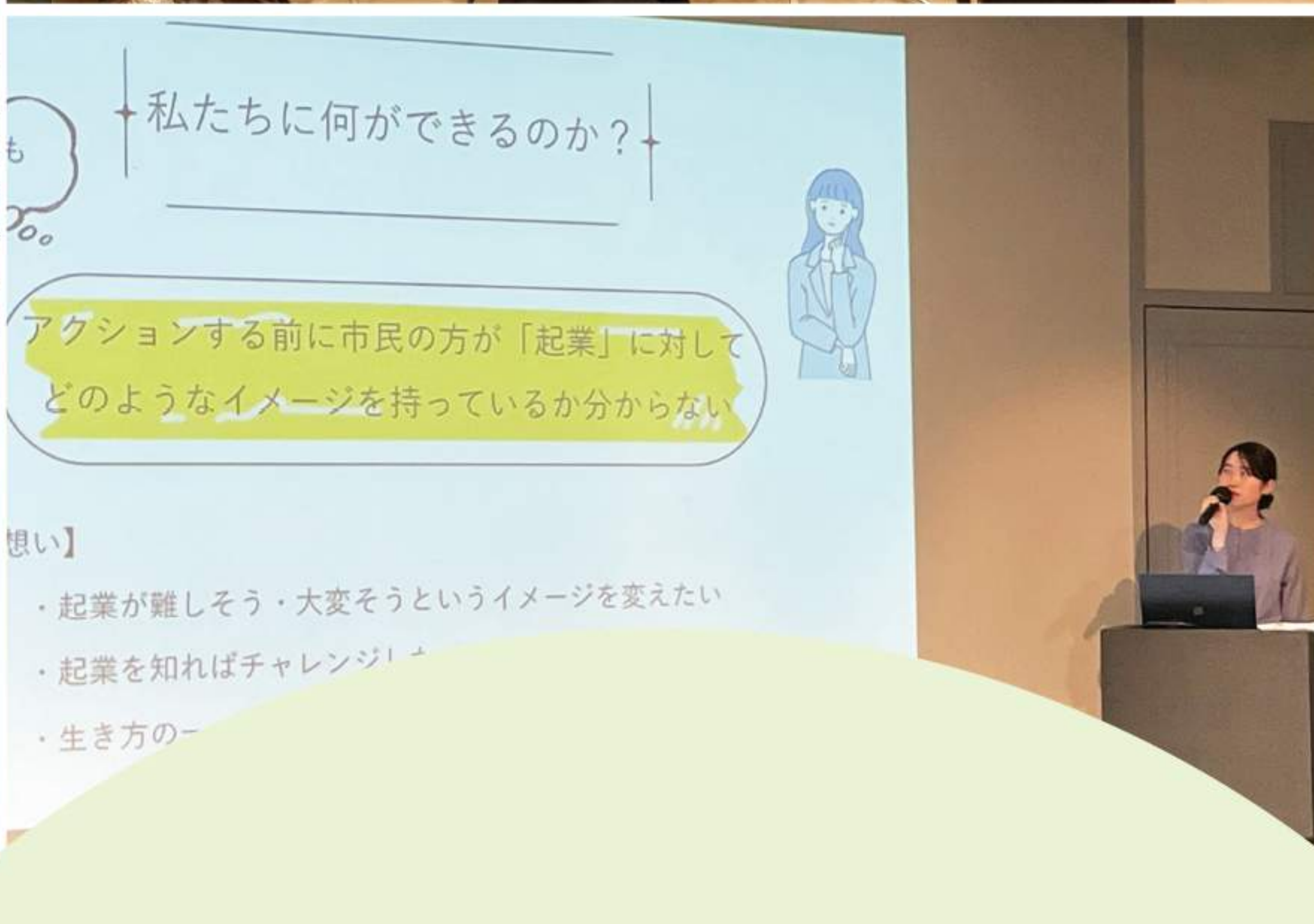






「仙台まちづくり若者ラボ」について
└事務局・メンター紹介



活動の流れ・ワークショップ
アクション報告会



チーム紹介/アクション報告会プレゼンダイジェスト

└チームA 「サンモールウォーカー」

└チームB 「YAPPESU」

└チームC 「SSC -Sendai Sports Community-」

└チームD 「Little Link」

└チームE 「退屈しま仙台」

└チームF 「チーム社盛の都 ～伊達な食を追い求めて～」



About

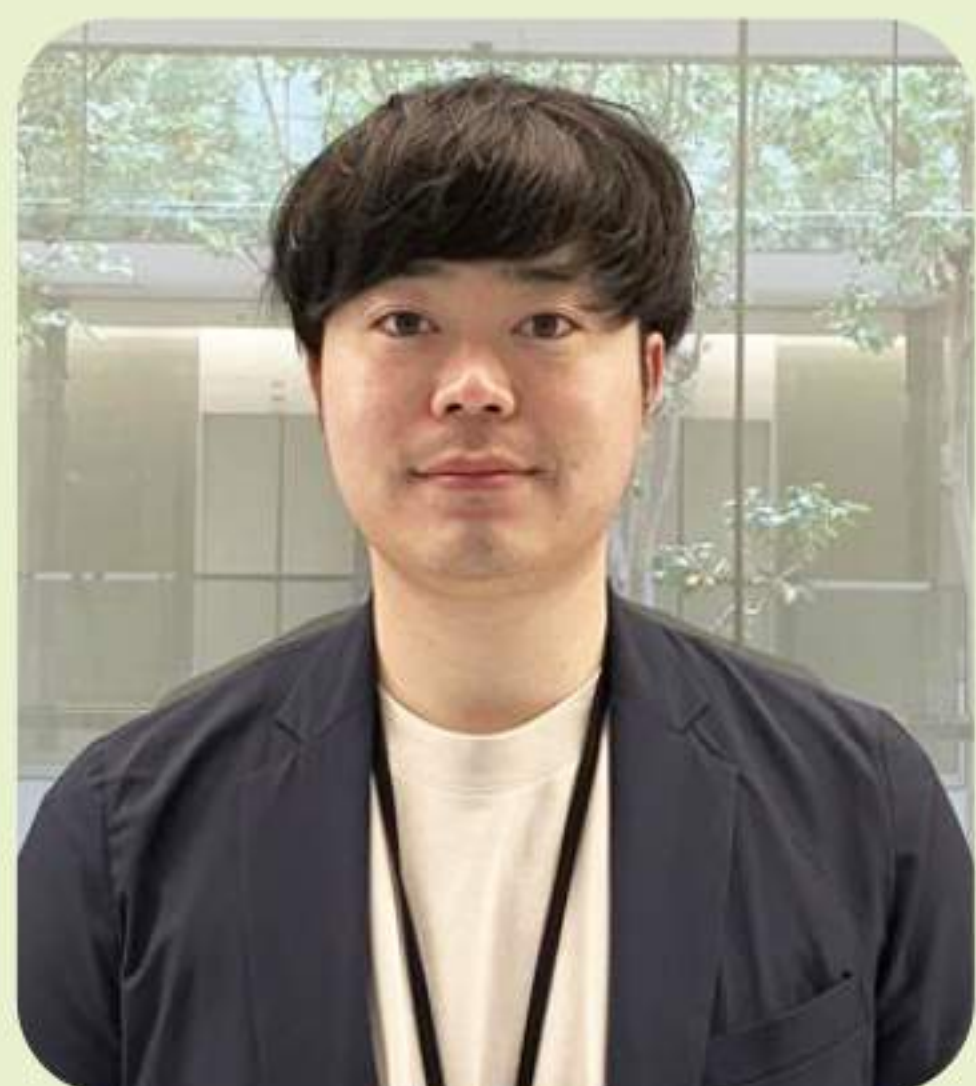
「仙台まちづくり若者ラボ」について



『“やってみたい”をやってみる半年間』

仙台市では令和2年度から、若者の自由な発想を仙台の活力創出につなげるため、まちの課題をワクワクに変える「仙台まちづくり若者ラボ」を実施しています。この事業は、若者自らが「自分ごと」として関われるまちづくりに関するテーマを設定し、ワークショップとフィールドワークといった実践型プログラムを通じて、そのプロセスや成果を発信するとともに、まちづくり活動の担い手となる若者の発掘・育成を目指すものです。若い世代の参加者が6つのチームに分かれて、「まちの特派員」として自らの視点で取材活動を行いました。各チームには参加者と同年代のメンター（指導・相談役）を配置し、プロジェクトの進捗管理やフィールドワークの伴走支援、他団体との連携支援などフォロー全般を行い、活動をサポートしました。

事務局・メンター紹介



イベント企画・運営担当者
(株)JTB仙台支店 地域交流グループ

五十嵐 優さん



イベント企画・ファシリテーター
(一社)ONE TOHOKU HUB

伊藤 愛発さん



メンター

柴田 北斗さん



メンター

小岩 慶浩さん



メンター

近藤 志乃さん



メンター

原田 紗歩さん



メンター

佐々木 彩乃さん



メンター

神尾 真大郎さん

！仙台まちづくり若者ラボ 2024



活動の流れ・ワークショップ

第3回ワークショップの後に、各グループがやってみたいことを具体化して実際にやってみる“アクション期間”を設け、全4回のワークショップを行いました。

Part
01

ワークショップ

6月29日

- ・仙台まちづくり若者ラボの概要説明
- ・奥口文結氏による講義
- ・グループワーク

フィールドワーク

Part
02

ワークショップ

8月9日

- ・アクションプラン作成
- ・グループワーク



フィールドワーク

Part
03

ワークショップ

9月20日

- ・仙台市の部署の取組等紹介（財政課、政策企画課）
- ・アクションプラン発表

アクション期間

Action
Report
Meeting

アクション報告会

12月2日

- ・各チームアクション報告



アクション期間

Part
04

ワークショップ

1月17日

- ・アクション報告会を終えて
- ・グループワーク



フィールドワーク



アクション報告会

令和6年12月2日、仙台市市民活動サポートセンターで開催しました。

今年度は42名の参加者が、それぞれが掲げたテーマに沿って、まちの未来を「自分ごと」に引き寄せ、約5か月間の議論を重ね、実際のアクションに移してきました。アクション報告会では、これまでのアクションの紹介、アクションを通じて得られた経験やアイデア、今後取り組んでいきたいアクションについて、一般観覧者及び市長や仙台市職員等関係者の前で発表しました。

その活動の様子を、本誌及び仙台市公式動画チャンネル「せんだいTube」で紹介いたします。「自分ごと」として関わる、新しいまちづくりの形をぜひご覧ください。

アクション報告会
各ワークショップの動画を
「せんだいTube」で
絶賛公開中！



仙台
まちづくり
若者ラボ

アクション報告会 全編版
「5か月間の活動報告 & 特派員証の授与」



YouTube

01 Team A (文化芸術)

サンモール ウォーカー

【テーマ：仙台のアーケード文化の魅力大発見！】

Mentor 柴田北斗

Member 石毛宗一郎/池ノ上正樹/大淵千優/角田凜衣/熊谷流伽/中村旺汰/引地七海/村山華蓮

Action

サンモール一番町のまち歩きをプランニングし、サンモール文化を創出・発信



活動の様子

01



実際にみんなでまち歩きをし
新たな発見をたくさんしてきました

02



古くからある飲食店街なども訪れ
まち歩きのプランを考案

03



サンモール一番町の魅力を再認識！
これからどんどん情報発信をしていきます！

アクション報告会・プレゼンダイジェスト

仙台には文化的・歴史的な施設はもちろん、街中にも聴覚や視覚で楽しめるスポットが多数存在しています。そこで、まち歩きを通じて仙台の文化芸術を発見するためにフィールドワークを実施することにしました。

1回目のフィールドワークでは仙台の代表的な通りを中心に街中散策を行いました。街を意識して散策をすることで、人によって目の付けどころが異なることや、複数人で歩くと小さな気づきを共有して雑談できることがわかりました。その一方で、長い歴史を持っているのにその中身があまり知られていないアーケードの存在に気付いた私たちは、アーケードの建物の2階以上や裏通りにどんなものがあるのか、更に深掘りしていきたいと考えました。

2回目のフィールドワークでは、サンモール一番町をフィールドワーク先として選びました。そこを訪ねて辿り着いたまちづくりのビジョンは、サンモール一番町を舞台に若者をターゲットにしたまちづくりを行うということです。サンモール一番町は仙台駅と距離が離れているので、人流が他のアーケードに比べて少ないのですが、皆が知らないようなニッチなお店があり、大学のキャンパスが近いため、学生向けの潜在的なニーズが確実にあるのではないかと思います。

さらに、仙台の若者が東京圏に流出しているという課題に対して、仙台市在住の大学生を対象に、Instagramを通じてサンモール一番町でのまち歩きプランを提案することで、仙台にはまだまだこんなに面白いところがあったんだと知ってもらうきっかけ作りができればなと思っています。

具体的なアクションとして、学生と社会人ごとに2人ペアでそれぞれシチュエーションを決め、サンモール一番町のお店やスポットでまち歩きをプランニングし、サンモール文化を創出しました。

まだInstagramの投稿はできていないのですが、これからおすすめのスポンサーを投稿していくので、チェックしてみてください。特に穴場のお店に焦点を当て観光ルートを発信していこうと思っています。

仙台市市民局 佐々木 淳一局長のコメント

アーケードに着目し、その中でもサンモール一番町という選択がいいなと思いました。課題意識を持たれて街を歩いた成果だと思います。人によって街の楽しみ方のバリエーションが色々あると思うのでシチュエーションに応じて、今後いいプランを考えていただければと思います。





02 Team B (ビジネス)

YAPPESU

【テーマ：手段としての起業！認知の輪を広げる！】



Mentor 神尾真大郎

Member 及川紗知/佐藤羽菜/斉藤よしか/外下和奈/服部陽佳/松原悠宇

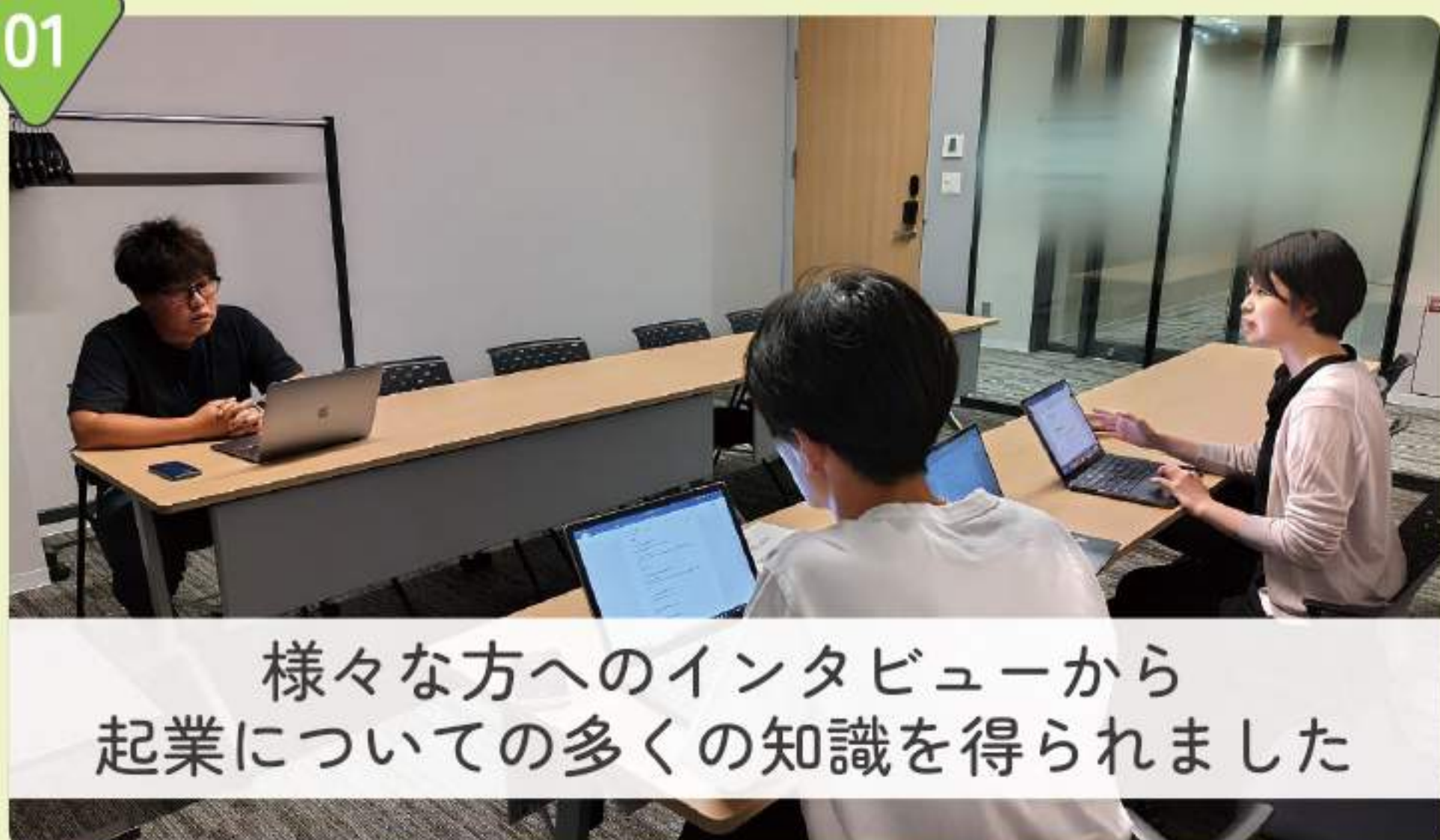
Action

起業の魅力を活動の軌跡とともにInstagramで発信



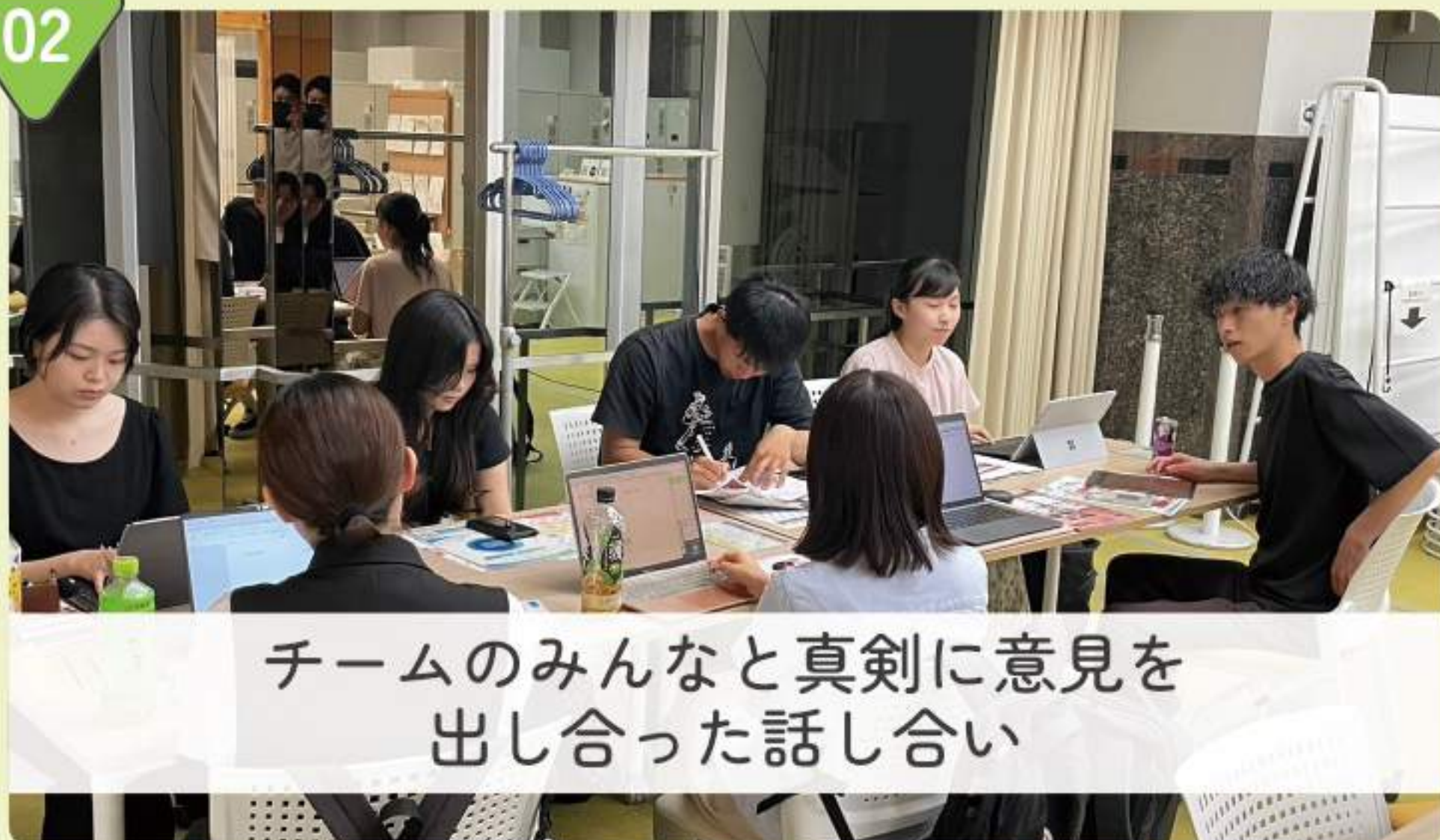
活動の様子

01



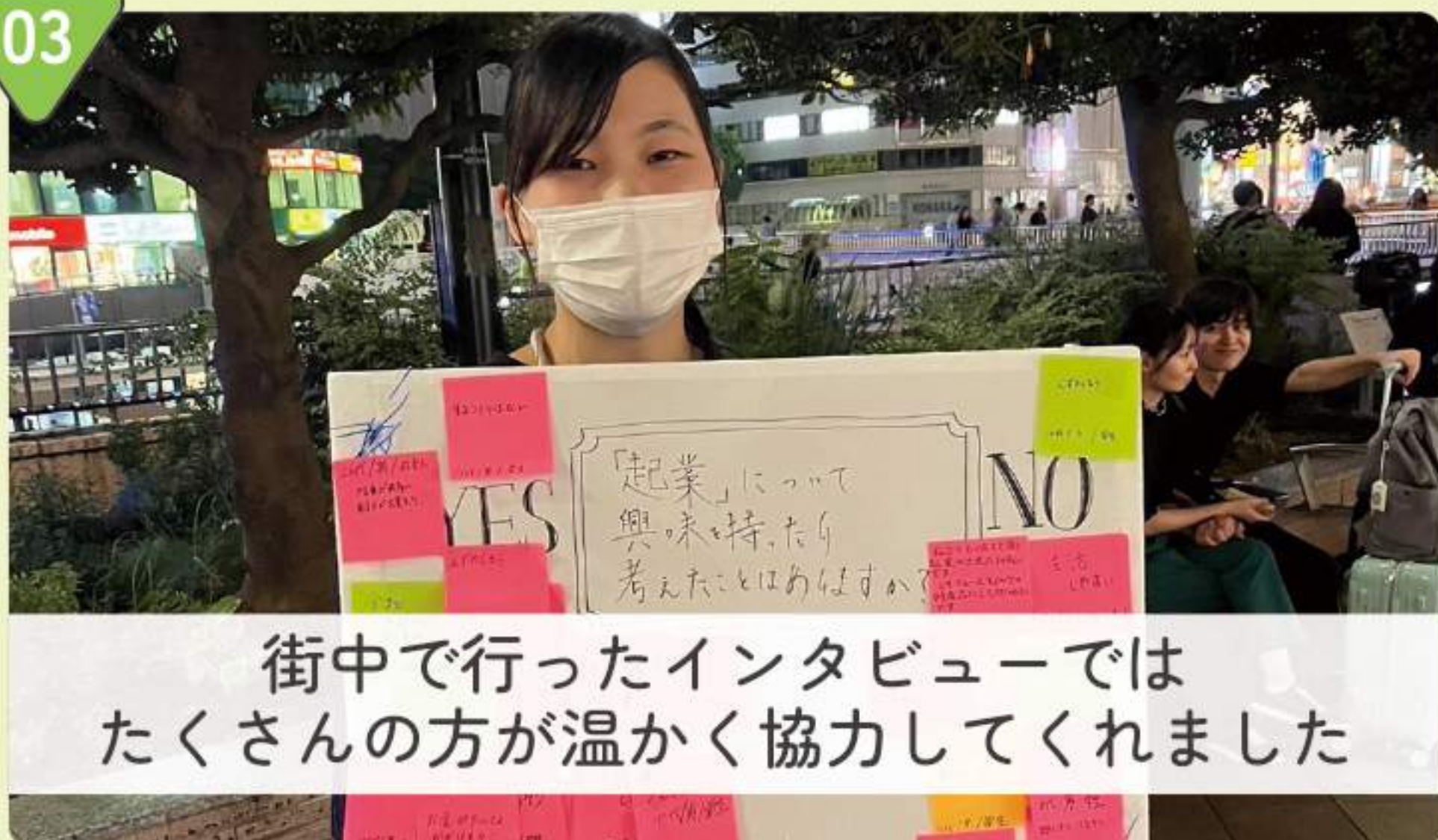
様々な方へのインタビューから
起業についての多くの知識を得られました

02



チームのみんなと真剣に意見を出し合った話し合い

03



街中で行ったインタビューでは
たくさんの方が温かく協力してくれました

アクション報告会・プレゼンダイジェスト

仙台での起業について学び、学んだことを起業体験記としてまとめ、仙台で起業したい人の背中を押したいというテーマのもと、活動していくことになりました。

1回目のフィールドワークでは一般社団法人ONE TOHOKU HUBの手島さん、株式会社オーナーの佐々木さん、株式会社ATOMicaの鈴木さんにインタビューをし、まず起業のハードルは低いということが分かりました。また、もっと起業について知るため仙台市起業支援センターアシ☆スタさんのイベントに参加し、起業についての多くの知識と気づきを得ることができました。

次に仙台市の人々が起業についてどのようなイメージを持っているのかアンケートを行うことにしました。合計118名の方に回答していただくことができ、回答者のうち半分以上は、起業に何かしら興味や考えを持ったことがあるという結果が出ました。また、起業は難しいという回答が共通していました。

これらの街頭インタビューの結果を踏まえ、私たちと同世代の若者に起業の魅力を知ってほしいという意見がメンバーで一致しました。そして、同年代の利用者も多いInstagramでインタビューから学んだことを発信していこうとまとまりました。

10月末にYAPPESUのInstagramアカウントを開設し、主に約半年間の活動の軌跡を「やっペストーリー」として発信しています。投稿を作るのってこんなに大変なんだ、たくさんの人に見てもらうにはどうしたらいいのかなど、初めてのことにワクワク楽しみながらも悩みながら投稿を続けています。

最初は起業は難しいと考えていましたが、簡単にできるということを知り、仕事をする上での選択肢の一つになることも学びました。起業は人によって選ぶ形態が違うということも、魅力的なのではないかなと感じました。これからは起業も人生の選択肢の一つであることを伝えていきたいと感じました。

仙台市 郡和子市長のコメント

起業された方々のお話を聞いたり、街中でアンケートを取ることはすごくドキドキすることだったと思いますが、あれだけ資料を集めて活動に繋げていて素晴らしいなと思いました。自分もゆくゆくこういうことをやってみたいという考えも示してもらえると、なお素晴らしいと思います。





03 Team C (スポーツ)

SSC Sendai Sports Community

【テーマ：仙台をスポーツを楽しむ街にしたい】



Mentor 小岩慶浩

Member 高橋孝聖/高前田玲/丸本竜也/松岡孝樹/湯本佳成

Action

スポーツしながら街にも貢献！ランニング×ゴミ拾い



活動の様子

01



はじめてのワークショップでは
みんなの意見を出し合いました

02



考えたアクションプランを
メンバーで街に繰り出して実行！

03



普段何気なく歩いていた道にもゴミが
多く見られて、意識の大切さを実感

アクション報告会・プレゼンダイジェスト

ワークショップでは、日頃スポーツが出来る場所や仲間がなかなか見つからないという意見が出ました。しかし、仙台市はスポーツチームが多くある街なので、テーマを「仙台をスポーツを楽しむ街にしたい」とし、場所とコミュニティづくりを行っていききたいという意見にまとまりました。

1回目のフィールドワークでは泉区にあるMIFA Football Park 仙台にて、フットサルの練習会に参加しました。限られた時間の中でスキルの上達が感じられ、スタッフさん含め他の参加者の方の雰囲気作りが上手く、初めての参加者も前のめりに練習することができていました。

フットサルよりもランニングは気軽に参加でき、参加するハードルが低くて開催しやすいと感じ、2回目のフィールドワークでは、株式会社RUNDYという宮城でランニングのイベントを開催している団体の代表である渡邊さんの指導を受けました。イベントに参加してみて、理論や体の構造を学んで正しく動かすとパフォーマンスの向上やけがの防止につながる事が分かりました。また、渡邊さんが気軽に話しかけてくれたり、一人一人に合わせた指導をなさっていて、スポーツのイベントとしては非常に手が届きやすいと感じました。

これまでの活動を経て、自分たちもスポーツを楽しむコミュニティを作ることと、若者ラボでの活動中にイベントを一から企画し開催することをアクションプランとし、ただ走るだけではなく仙台市内でランニング×ゴミ拾いをしました。実際に実施してみたところ、何気なく歩いている道でも思った以上にゴミが多くありました。

最後にまとめです。1つ目は、経験のないスポーツも一緒にやってみると楽しめるということです。2つ目は普段つながれない人たちとも活動を通して新たに出会うことができるという点です。3つ目が企画や集客の難しさです。スポーツイベントを開催する上で核の部分になるので、その難しさを非常に感じました。今後の展望としては、この設立したコミュニティを土台に継続的な活動を続け、スポーツを通じたまちづくりの力になれるように、今後も活動していきたいです。

仙台市 郡和子市長のコメント

ゴミ拾いとランニングの掛け合わせでしたが、他にも色々な掛け合わせがきっとできるに違いないと思いました。ゴミ拾いもやっていただき色々な気づきもあったようですが、是非またスポーツと掛け合わせると可能性は広がると思いますので様々なことにチャレンジしていただければと思います。





04 Team D (こども・教育)

Little Link

【テーマ：仙台×インクルーシブ教育・探究学習】



Mentor 近藤志乃

Member 浅野圭亮 / 小野寺敬志 / 鈴木将太 / 鈴木亜里紗 / 長浜多嬉 / 狩野なつみ / 猪俣由椰 / 菅原茉唯

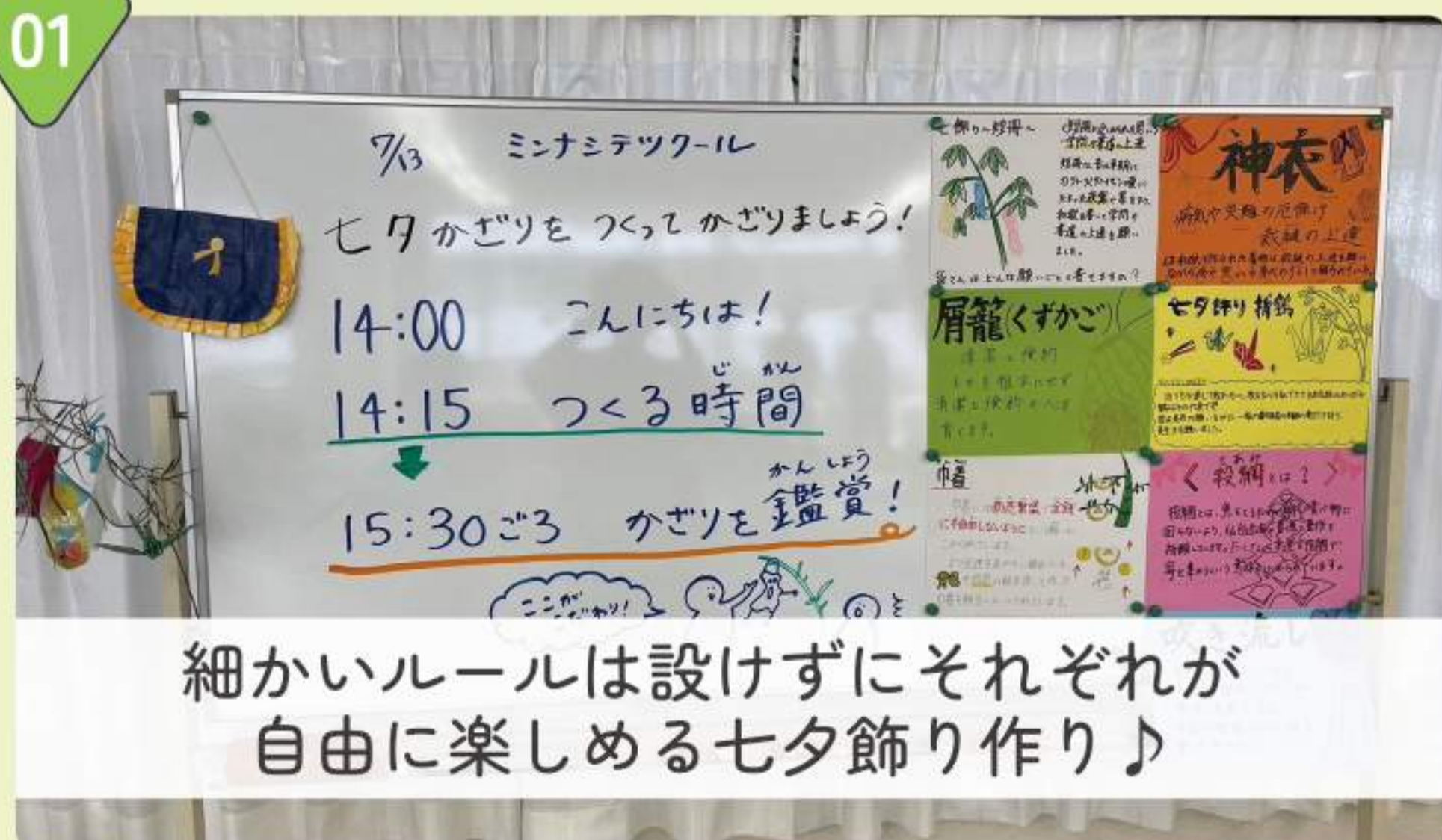
Action

年齢・性別・国籍を超えて小さなつながりを生み出すイベントを開催



活動の様子

01



細かいルールは設けずにそれぞれが自由に楽しめる七夕飾り作り♪

02



利用者さんも一緒に作り上げる「アンダンチ縁日」に参加

03



外国籍のご家族を含む、全5家族の皆様と楽しくパンケーキを作るイベントを開催

アクション報告会・プレゼンダイジェスト

私たちは「仙台×インクルーシブ教育と探究学習」をテーマに様々なフィールドワークを行いました。1つ目は、仙台市生涯学習支援センターが開催した第2回「ミンナシテマザール」の七夕飾りを作成する講座です。ここでは、障がいのある人もない人も共に学び、ルールを細かく決めず、作り方・作るものなどを参加者が自由に決めることができること、参加者のペースを大切にすることの2点を学びました。2つ目に行った多世代交流複合施設アンダンチは、人が集まる場を提供するだけで、ルールを決めずに自由に交流できることを大事にされているようで、自分たちも参加者に楽しみ方を委ねるイベントを作っていきたいと思いました。3つ目に東北学院中学校・高等学校の探究学習の授業を見学し、そこで出た仙台的まちづくりに関わるアイデアを実行できる場所があるといいのではという意見から、私たちがそのきっかけとなる場を作れないかと「場づくり」というキーワードが出てきました。

他にもアンダンチ縁日や、日本語を母語としない中学生のための夏休み教室、月1で開催されているこども食堂の活動と様々なフィールドワークを行う中で、コミュニケーションが非常に重要になるのではないかと思います。そこで、多様な人々が集まって自由に盛り上がり、気づきや学びが生まれるような場を作れば、それが私たちのアクションになるのではと考え、「みんなでパンケーキを作ろう」というイベントを開催し、外国籍の1家庭を含む5家庭の皆様と、パンケーキ作りやゲームなどを行いました。参加者からはまた参加したいという声をいただき、年齢・性別・国籍を超えた楽しいイベントができました。

半年間の活動を経て、仙台市にはこどもや教育に関するイベントが既に数多くあるけれど、それらに関する周知を若い子育て世代に対してさらに効果的に行う必要があると分かりました。また、メンバー自身の成長や、小さなつながりを通してこどもたちの世界は各学校、各家庭から仙台に広がっていることが感じられました。今後もフィールドワーク先での活動を継続し、今回のイベントの課題を踏まえて次のアクションを企画したいと思います。

FOLK GLOCALWORKS 主宰 奥口文結氏のコメント

参加される方に主体的に楽しんでもらうという視点がすごくいいと思いました。その楽しさも恐らくその立場やバックグラウンドによっても違うと思うので、実施する前に第三者のご意見を伺ってみたり、企画段階でも多様な視点を取り入れることで、よりよい場づくりができるのではないかなと思いました。



05 Team E (観光)

退屈しま仙台

【テーマ：友達に仙台を案内できるほど詳しくなろう！】

Mentor 原田紗歩

Member Aldila Akmal Mahdi/伊藤花那/尾崎匠/鹿股優月/喜藤千夏/黄川田朱里/金優思朗/山科美徠

Action

自分たちの体験を活かした仙台の観光案内と魅力発信



活動の様子

01



フィールドワークでは仲間たちと実際に様々な観光地を訪れました

02



決して忘れてはならない震災の被害に遭った小学校に伺いました

03



新しい楽しみ方を考えながら観光案内を実行！

アクション報告会・プレゼンダイジェスト

まずは自分たちで仙台の観光地に足を運び、仙台の良さを知って周りの人たちに紹介できるようにしようという目標を立ててこれまで活動してきました。

仙台には東西南北に観光地がたくさんあります。例えば、仙台の東側には東日本大震災で津波の被害に遭った荒浜小学校や、震災後にオープンしたアクアイグニス仙台。また、仙台城跡や、仙台の北側には、スリーエム仙台市科学館があります。自分たち自身が実際に足を運んで体験すると、観光地の魅力を深く知ることができ、その魅力を外部の人にも案内して知ってもらえることから、2つの視点から観光地を案内してみようという話になりました。1つ目は、これまでのフィールドワークを活かした観光案内、2つ目は、楽しい場所を見つけてきた経験を活かし、一緒に仙台の魅力を知るという視点です。

まず、荒浜小学校に向かいました。ここは震災の記憶を伝える場としてとても重要な場所です。私たちは、一緒に行った知り合いにどんなことを感じたのか、この場所にどんな想いがあったのかなど質問を投げかけて、会話を通じて震災についての考えを深めていく工夫をしました。案内を終えた後には、実際に来る機会がなかったから来られて良かったとの声や、震災をよりリアルに感じられたという感想をいただきました。

続いて行った八木山ベニーランドでは、ただ遊ぶだけではなく、仙台の観光地として新しい楽しみ方を提案することを目指し、訪問者と一緒にどんな目的で楽しむのかを考えながら案内をすることができました。

半年間の活動を通して得た成果は、仙台に関する観光の知識が増えたことで、観光案内ができるまでに成長したことと、仙台を改めて観光という切り口から考えるいい機会になったことです。一方で、次回行う時にはもっとマイナーな観光地にもフォーカスを当て、そこを観光地として取り上げたり、移動手段として徒歩や様々な交通手段を加味することで更にプランの奥行きが深まるかなと実感しています。

仙台市市民局 佐々木 淳一局長のコメント

場所としてのメジャー・マイナーはもちろんあると思うのですが、メジャーな場所であってもその中に隠されている魅力があるのかなと思います。今見た中で感じるだけでなく、そういう魅力を発掘する面白さという視点も加えていただきながら深めてもらえればと思います。





06 Team F (食)

チーム杜盛の都 ～伊達な食を追い求めて～

【テーマ：生産者支援のための生産者カードの制作】



Mentor 佐々木彩乃

Member 及川建海/木下沙織/菅井昂/関町咲穂/米澤美彩

Action

オリジナルメニューの考案・提供と、生産者カードの作成・配布



活動の様子

01



普段なかなか体験できないことも
たくさんさせていただきました

02



みんなで一生懸命作った
オリジナルの生産者カード

03



街の人たちの暖かさに触れた
様々な経験に感謝いっぱい！

アクション報告会・プレゼンダイジェスト

私たちはまず、仙台の食についての課題を考え、仙台の食に関わる方々を訪問し話を聞いてみることにしました。そこで、泉区の枝豆農家の田代さん、こだまのどら焼きさん、伊東豆腐店さん、大滝自然農園の佐藤さんを訪問し、様々な見学や体験をさせていただきました。

様々なフィールドワークを行った結果、私たちは、地元食材や商品の有効活用、地元企業と生産者の広報という2本の柱を立てて活動することにしました。まず、地元食材や商品の有効活用として、きっかけ食堂という東日本大震災の月命日に東北の食材を使った料理を食べるイベントで、オリジナルメニューとしてカラーにんじんの葉を素揚げにした料理と、こだまのどら焼きの皮を使ったお好み焼き風を考案し提供しました。

次に、地元企業と生産者の広報をするために、オリジナルの生産者カードを作ること考えました。カードは子どもも楽しめ、生産者さんのHPやInstagramの二次元コードを作成して読み取れるように、何度も工夫をして作りました。

また、実際に行ったアクションでは、秋保で開催されたイベントに参加し、販売のお手伝いをしながらカードを配りました。カードが、お客さんの手に渡り、喜んでいる姿を見届けられた時はとても嬉しかったです。きっかけ食堂のイベントや、伊東豆腐店の出張販売のお手伝いにも行き購入された方にカードを配りました。面白いカードだねと喜んでいただき、とても嬉しかったです。こうした活動の結果、合計約500枚のカードを配布し、効果的な広報を実行することができました。また、イベント会場では他の出店者からコラボしたいという声もいただきました。今後、SNSや広報紙などを駆使し、カード自体の存在を認知してもらうことで、より大きな広報力を持つ取り組みになっていくことが期待できるかと思います。

このような活動を通した一番の成果は、誰かを笑顔にできたこと、たくさんの出会いがあったことだと思います。最後に、未来の仙台を担うのは私たちです。私たちが大好きな街仙台を多くの仲間たちと共に作っていきます。

FOLK GLOCALWORKS 主宰 奥口文結氏のコメント

カードのクオリティが高くてかわいし、書いてあるコピーも面白いです。ただ、宮城の食の魅力をPRしていくという意味では県内だけでは駄目だと思います。このカード自体にすごく引きがあるので、SNSのコンテンツとしてPRしていくと面白いと思って見てくれる方もいるんじゃないかなと思いました。





仙台まちづくり若者ラボ参加者のみなさんからの声



若者ラボ参加者の感想

- 仙台まちづくり若者ラボに参加するまでは、まちづくりは行政で行うものというイメージがあったが、このイベントに参加してからは個々人が自由に地域の良さを見つけて発信していくものだと、まちづくりを身近に感じることができた。(学生)
- チームの皆さんの活動に対する姿勢を見て、私もこんな人たちになりたい、という憧れを持つことができました。尊敬できる方たちに出会えて良かったです。(学生)
- 自分にできることを何かやってみたいという漠然とした思いで本プロジェクトに参加したが、予想以上に充実した時間を過ごせた。(社会人)
- 初対面の人たちを半年間でアクションにまで持っていくことは不可能ではないかと思っていたが、実際に活動してみたら、チーム内で絆ができ、メンターのアドバイスもあって、スムーズに活動することができた。(学生)
- 生まれ育った仙台という街の魅力は自分の中では分かっていたつもりでも、いざグループでディスカッションをしてみると、自分が気づかなかった仙台の魅力もあって、愛着がより湧いた気がします。(学生)
- 自分が行動すれば、まちづくりに関わることが身近にたくさんある！(社会人)

若者ラボ参加者から若者の皆さんへ

- 若者ラボに参加して、仙台市をもっと好きになることができました。仙台市をより身近に考えることができ、半年間で自分自身の成長も感じられるようになります。ぜひ挑戦してみましょう！(学生)
- 社会人になると仕事や家庭のことで手一杯になり、自分の住んでいる地域のまちづくりに携わる機会は減ると思います。だからこそ、こういった場に参加し、学生と社会人の双方の視点から地域に関わることは、とても貴重で有意義だと実感しました。(社会人)
- 最初はまちづくりとはなにか正直分からなくて不安もあったけど、半年間の活動を終えて、若者ラボに興味を持っている人に送りたいメッセージは「迷っているなら参加しよう！」(学生)
- 参加してみたい、活動してみたい気持ちさえあれば、大丈夫です。知識も経験もいりません！一緒に活動しながら学んでいきましょう！(学生)
- 参加するまでは不安かと思いますが、いざ参加してみると、サポート体制も充実していますし、色々な方の価値観に触れることができるととても楽しいと思います！(社会人)

活動の様子や最新情報をSNS等で発信中！

仙台まちづくり若者ラボ2024



YouTube



Instagram



Facebook



X(旧Twitter)



参加者を取材した記事も公開中！

編集
発行

主催：仙台市

協力：仙台市市民活動サポートセンター

事務局：仙台まちづくり若者ラボ企画・運営業務共同企業体

【(株)JTB仙台支店・(一社)ONE TOHOKU HUB】